

大学図書館の現状と課題

近畿イニシアティブ基礎研修2018・課題提起

2018年5月24日 京都大学附属図書館 米澤 誠

yonezawa.makoto.3w@kyoto-u.ac.jp

内容

1. 大学図書館の目的と機能
2. 大学図書館の変化
3. 国の施策の変化
4. 大学図書館の課題
5. 新人職員に期待したいこと

1 大学図書館の目的と機能

大学図書館が有する資料・学術情報、施設・設備（ファシリティ）、職員というリソースを使い、大学の目的・機能の実現を支援する組織

教育・研究を直接行うというよりも「支援」という位置づけ

(1) 教育支援

- －教育・学習用資料の整備
- －学習支援のための教育（情報リテラシー教育）
- －多様な学習ニーズに応えられる施設・設備（ファシリティ）提供

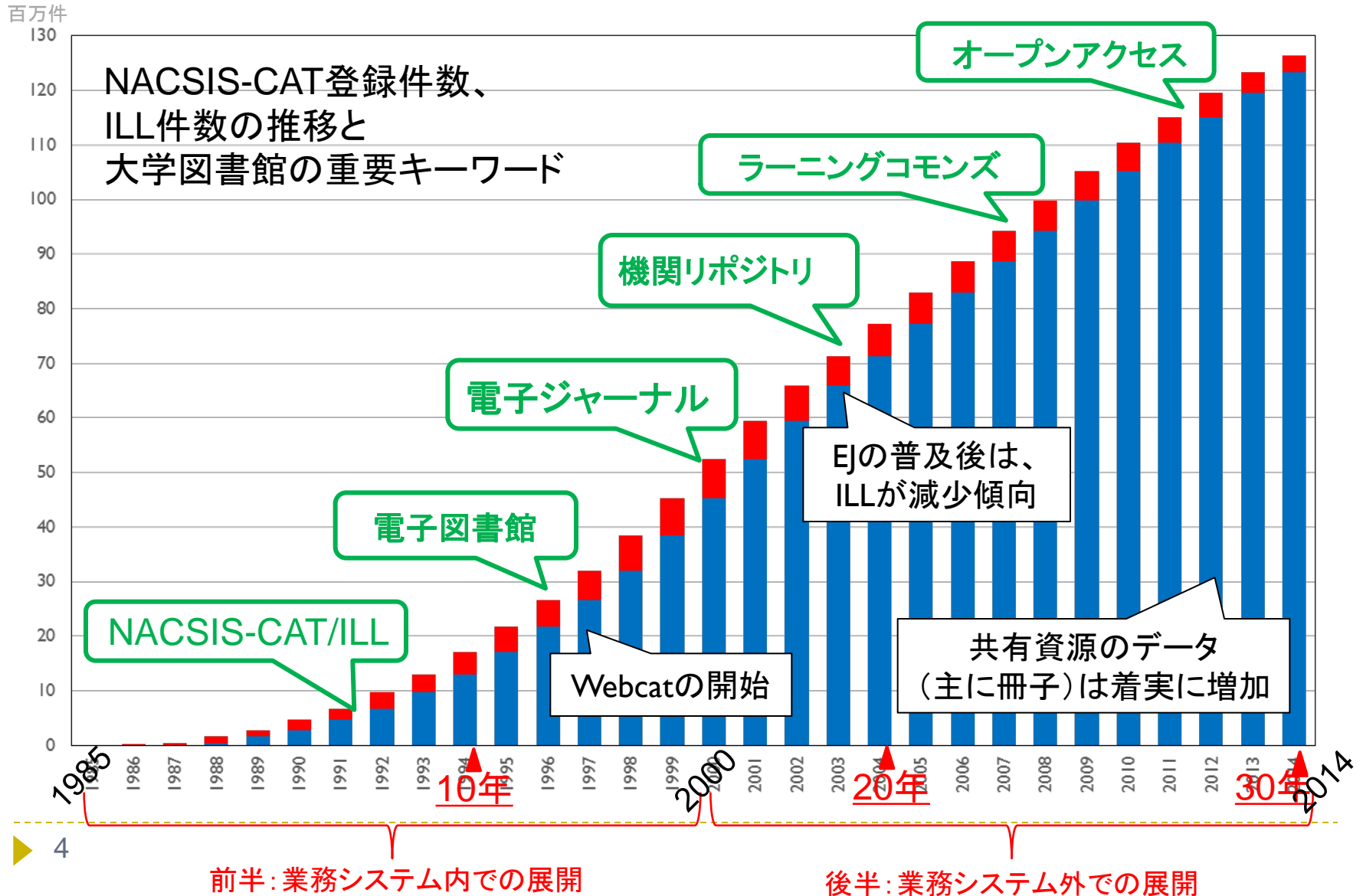
(2) 研究支援

- －研究用資料の持続的・安定的整備（近年は特に電子ジャーナル、DB等）
- －研究成果の生産・発信支援（機関リポジトリ、オープンアクセス等）

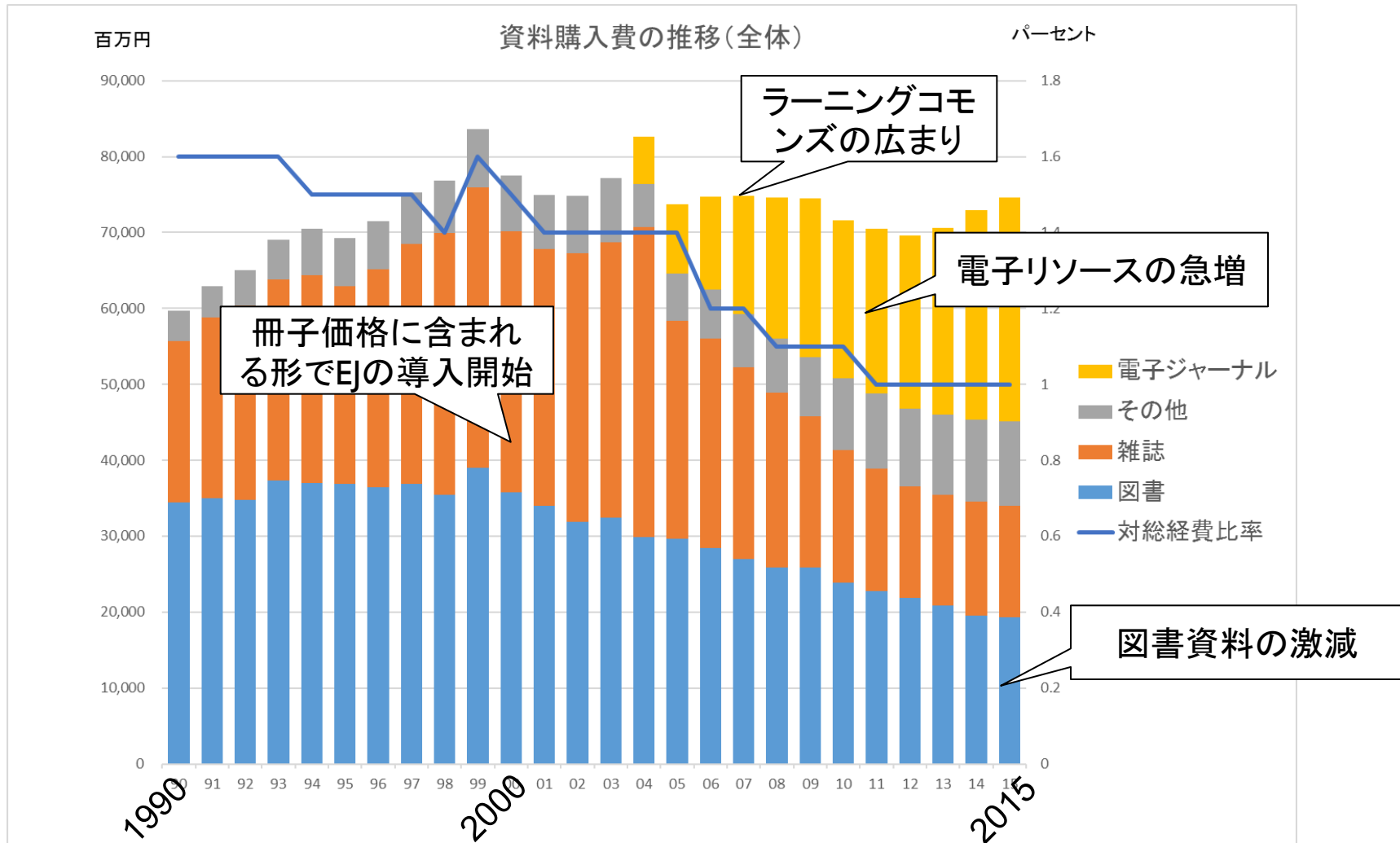
(3) 社会貢献

- －所蔵資料展示、市民公開
- －地域連携

2.1 大学図書館の変化：この30年の動向



2.2 資料の変化：資料購入費



2.3 資料の変化：資料整備的観点からの概況

- 電子資料の急激な普及
 - 学術雑誌の紙雑誌から電子ジャーナルへの急速な転換
 - 電子書籍の広がり
- 紙資料の「所蔵・所有」から、電子資料への「アクセス」へ
- 「アクセスの保障」からは、機能論としての図書館
- 安定的な契約・ICT環境等の維持
- 契約上の大きな課題：円安、消費税、課税
- 電子資料の整備，組織化，サービス ⇒ 新たな業務
 - ERDB、RDA
 - 教材、研究データのメタデータ化
 - オープンアクセス誌の扱い、オープンアクセスポリシーからの業務

2.4 資料の変化：利用的観点からの概況

- 資料の粒度：図書・雑誌レベルから、論文レベル、図表・データレベルに
- 紙資料と電子資料の併存
 - 紙資料と電子資料を併用 → 多様なアクセス
 - 紙資料と電子資料の統合的利用の環境整備
- 「図書館は要らない」からは、施設論としての図書館
- 電子化時代の教育学習空間・研究空間の創出
 - ラーニングコモンズ
 - 学部等での空間創出←電子資料、図書館での高集密所蔵

2.5 教育と場の変化：概観

- ラーニング・コモンズ整備のノウハウ共有
 - 新築・増改築以外での実現方法
 - ラーニング・コモンズの評価、改善の手法
 - アクティブラーニングへの関与の仕方
- 学習支援としての情報リテラシー教育
 - 図書館員としてのテリトリー
 - ラーニング・コモンズでの学習支援の方策
 - 初年次教育との連携・協力

3.1 社会の変化

■ 18歳人口の減少と大学進学率の向上（ユニバーサル化）

- 18歳人口の減少
- 大学進学率の向上と入学者の多様化

初年次教育、情報リテラシー、アクティブラーニングの重要性

■ 国際化（グローバル化）の進展

- 社会や研究だけでなく、大学教育も

オープンアクセス、オープンサイエンスへの取り組み

■ 国の財政、大学の財政基盤

- 厳しさを増す財政状況
- 業務の外部化（業務委託、派遣の増加）、雇用の非正規化

電子ジャーナル等の電子リソース整備の課題

■ 社会の情報化、ICTの普及

組織力の維持・強化、人材育成の課題

3.2 国の施策の変化(1)

■ 平23.8 第4期科学技術基本計画(平23～27) 閣議決定

- 機関リポジトリの構築推進、オープンアクセス推進

機関リポジトリと
オープンアクセスの
社会的認知

■ 平24.7 学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について 科学技術・学術審議会 学術情報基盤作業部会

- 科研費等競争的資金による研究成果のオープンアクセス化への対応
- 機関リポジトリの活用による情報発信機能の強化について

■ 平25.8 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ) 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

- 教育振興基本計画等への対応
- コンテンツ、学習空間、人的支援

アクティブラーニングと
ラーニングコモンズの
社会的認知

■ 平26.7 教育研究の革新的な機能強化とイノベーション創出のための学術情報 基盤の整備について—クラウド時代の学術情報ネットワークの在り方—(審議 まとめ) 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

- アカデミッククラウド、次期SINET

3.3 国の施策の変化(2)

オープンアクセスから
オープンサイエンス
(研究データ)へ

- 平28.1 第5期科学技術基本計画(平28～32)に向けた検討
 - 内閣府の総合科学技術・イノベーション会議
 - 文部科学省では科学技術・学術審議会の総合政策特別委員会等
 - オープンアクセス、オープンサイエンス、機関リポジトリ、研究データ

- 平28.2「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」
 - 文部科学省科学技術・学術審議会のもとの学術情報委員会
 - 大学図書館への期待:機関リポジトリの経験を活用。人材育成。
 - 機関リポジトリ等を通じたオープンアクセスの取組を一層促進。
 - データキュレーター等を育成するプログラムを開発・実践。
 - データを選び出し、修復し、組み合わせることも含めて分析する。
 - 著作権処理に負担を感じさせずに利活用できる仕組み。

4.1 国立大学図書館協会ビジョン2020

「大学図書館の基本理念」

大学図書館は、今日の社会における知識基盤として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

4.2 ビジョンの重点領域1：知の共有

＜蔵書＞を超えた知識や情報の共有

- ▶ 教育研究成果の発信、オープン化と保存

大学間コンソ

JPCOAR

国大図協組織

オープンアクセス委

大学で生み出される成果の電子的流通とオープン化を推進、
長期的な保存も

- ▶ 出版された資料の整備と利用

JUSTICE

学術資料整備委

紙媒体の蔵書、電子リソースの適切な整備、利用環境の整備

- ▶ 知識や情報の発見可能性の向上

これから委員会

学術情報システム委

学術情報システム基盤の高度化により、必要な情報がより効率的・
網羅的に発見できる環境を実現

4.3 ビジョンの重点領域2：知の創出

新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

▶ 知を創出する場の拡大・整備・提供

図書館環境高度化委

- ▶ 学習を促す場
- ▶ 研究を支援する場
- ▶ 図書館の外への拡張

▶ 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

学術コミュニティに限らず様々な人々が知を媒介に集い、知の創出・共有を実現する場

4.4 ビジョンの重点領域3：新しい人材

知の共有・創出のための〈人材〉の構築

▶ 新たな人材の参画

教員、学生等様々な能力とスキルを有する人々と図書館職員とが一体となり、新たな機能を提供

▶ 国立大学図書館職員の資質向上

これまで培ってきた学術資料に関する専門的知識やメタデータ運用スキルに加え、新たな知識やスキルの習得により、新たな機能を実現